

## ミヤマカラスジミ

岡山県：準絶滅危惧

チョウ目

*Fixsenia mera* (Janson)

環境省：該当なし

シジミチョウ科

## 選定理由

冷温帯性の種で県内では生息地が局限され、生息環境の悪化により減少傾向が著しい。

## 存続を脅かす要因

森林伐採、林相変化、道路工事、土地造成、産地局限

## 分布状況

北海道、本州、四国、九州に分布し、西日本では冷温帯の高地帯に限られる。県内では、吉備高原の一部と中国山地に局地的な生息地が知られている。

## 生息情報

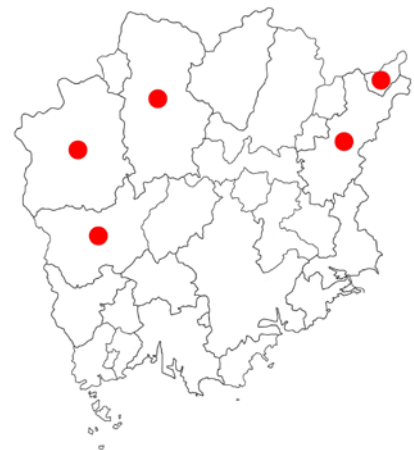
雄・雌ともに翅表は全体が一様に茶褐色で、前翅表に橙赤色斑を有するベニモンカラスジミや後翅裏面の白帯がW字状となるカラスジミとは斑紋の特徴で容易に区別できる。年1回、同属の他種よりも遅れて7月に発生する。幼虫の食樹はクロウメドキ科のクロウメドキ、キビノクロウメドキで、食樹の自生する岩場や落葉広葉樹林の周辺に生息する。成虫はヒメジョオンやヒヨドリバナ等で訪花吸蜜する。主に午後から活動し、飛び方は緩やか。雄は林縁の低木の枝先等を占有し、静止すると日光に垂直になるよう翅を傾ける習性がある。越冬態は卵。

文献番号 40, 71, 83, 101, 222

(中村 具見)



(裏面) 所蔵：中村 具見



## ベニモンカラスジミ

岡山県：留意

チョウ目

*Fixsenia iyonis* (Ota et Kusunoki)

環境省：準絶滅危惧

シジミチョウ科

## 選定理由

石灰岩の岩場に成立した疎林的环境に生息しており、全国的に生息地が局限されている。

## 存続を脅かす要因

林相変化、道路工事、産地局限、石灰採掘

## 分布状況

本州と四国の局限された地域に分布しており、国外では中国大陸西部（四川省）で確認されている。県内では吉備高原地域西北部の石灰岩台地がある新見市、高梁市、井原市から記録されている。

## 生息情報

雄・雌ともに黒褐色で前翅表に橙赤色の斑紋を有し、近縁種と容易に区別できる。雄は前翅前縁より灰色の性標を有し、中央部の橙赤色の斑紋は雌よりも大きく明瞭である。成虫は年1回、5月下旬から6月にかけて発生し、食樹が同じ近縁のミヤマカラスジミに比べて約1カ月ほど早く出現する。雄は日当たりの良い石灰岩の岩場でイワシデヤノグルミ等灌木の枝先を緩やかに飛び、占有行動をとる。ウツギで訪花吸蜜する。幼虫の食樹はクロウメドキ科のキビノクロウメドキ、クロウメドキで、細枝に産み付けられた卵で越冬する。岡山県西部から広島県東部にかけて分布する個体群は吉備高原亜種 (*kibiensis*) とされる。

文献番号 40, 71, 83, 101, 222

(中村 具見)



所蔵：中村 具見

